

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年 1月11日

協議会名: 西尾市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄東部交通株式会社	いこまいかー(デマンド型乗合タクシー)	利用者・利用地域に偏りがあるため、主な利用者層である高齢者等の少人数の会合に多数出向き、一人一人の日常生活での具体的な利用場面等を例示しながら、接続先の公共交通と一体となった効果的な周知を行い、潜在的利用者の掘り起こしを進めた。 特に、吉良地区において駅周辺の商業施設や医療機関へ目的地を拡大し、買い物や通院だけでなく、鉄道乗り換えも含めた移動提案を示し周知を行った。	A 計画どおり適切に実施された。	B 【いこまいかー全体利用者数】(目標)1,398人(実績)1,335人 達成率:95% 目標値の達成はできなかったが、前年比で33%の増加となった。特に、目的地拡大を実施した吉良地区においては、1.5倍の利用増となり、新たに利用できる商業施設や医療機関のみならず、鉄道駅までの利用も増加した。地区内のおでかけはいこまいかーの利用、市街地へのおでかけは鉄道への接続と、フィーダー系統としての役割を果たしている。	引き続き民生委員や包括支援センター等の高齢者と接する機関と連携した出前講座により認知度を高める。 ヒアリングでは「利用方法がわからない」「予約が難しい」等の意見もあるため、実車を用いた乗り方講座等を検討し、利用のハードルを下げたい。 また、市内全域一律の制度で運行しているが、半数のエリアで全く利用がないため、利用者数だけでなく、いこまいかーの要否や交通機関へのアクセス確保の有無等を把握し、吉良地区で実施した目的地の拡大をモデルに各地域に応じた運行を検討する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

平成31年 1月11日

協議会名:西尾市地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A ・ B ・ C 評価	【事業が適切に実施された(されている)か記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由を記載。】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
公共交通マップ、総合時刻表の作成	-	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年10月3日協議会にて掲載項目を合意。 ・平成31年4月1日のふれんどバスダイヤ改正を反映するため、3月末頃に配布開始予定。 	マイ時刻表作成の出前講座等の利用促進活動のツールとして公共交通マップ、総合時刻表を活用していく。次年度以降の増刷・改訂の際に、多言語対応等についても検討を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年 1月11日

協議会名:	西尾市地域公共交通活性化協議会
-------	-----------------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>総合計画等の上位関連計画における将来都市像、施策の方向性を踏まえ、鉄道、渡船、地域を跨ぐ幹線バス路線、地域内を循環する準幹線バス路線が相互に連携し、支線交通(デマンド型乗合タクシー「いこまいカー」、タクシー)によりこれらの公共交通を補完することによって、市民の暮らしを支えとともに、地域間の交流と活性化を担う。</p> <p>将来像として、「日常生活に必要な公共交通が効果的に確保され、便利で安心して暮らせるまち、地域の交流と活性化を実現できるまち」をめざす。</p>
-----------------------------	---